

ARIBの動き

「電波高度利用シンポジウム2004」開催される

去る12月3日、総務省及び当会の主催による「電波高度利用シンポジウム2004」が日本青年館(新宿区霞ヶ丘町)において開催されました。

本シンポジウムは、近年、情報通信分野の技術革新を背景として、電波利用ニーズはますます高度化・多様化するなかで、周波数帯の効率的利用のために周波数資源開発を推進していくことを目的として開催しております。

山本保総務大臣政務官に開会のご挨拶をいただいた後、先端の研究及び開発に携わってこられた国内外の研究者4名の方から、「ユビキタス時代のソフトウェア無線技術」というテーマで、無線通信として注目されつつあるコグニティブ無線技術の米国、欧州における開発動向や、ソフトウェア無線技術を用いた将来のアプリケーションなど、周波数の有効利用を図り、より高度かつ多様な無線通信サービスの実現に資する事を可能とする先端的な技術についてご講演をいただきました。当日は師走を感じさせない好天に恵まれ、定員の230名を超えるご来場があり、満席の会場で熱心に聴講されておりました。



シンポジウム2004会場の様子と山本保総務大臣政務官のご挨拶

講演1：「米国におけるコグニティブ無線関連の研究開発と施策の動向」
スティーブン工科大学 無線ネットワークセキュリティセンター長

Paul Kolodzy氏

講演2：「国内のソフトウェア無線技術の研究開発の最新動向」

横浜国立大学 工学部電子情報工学科教授

河野 隆二氏

講演3：「E2Rプロジェクト：欧州におけるソフトウェア無線・コグニ
ティブ無線技術に関する主な取組み」

モトローラ ヨーロッパ通信研究所E2Rプロジェクトマネージャー

Didier Bourse 氏

講演4：「ソフトウェア無線技術を用いた将来のアプリケーション」

独立行政法人情報通信研究機構

横須賀無線通信研究センターワイヤレスアクセスグループリー

ダー

原田 博司氏

電波行政の動き

船上地球局による高速・大容量海上衛星通信システムの導入 (技術的条件について情報通信審議会から答申)

総務省は11月29日、情報通信審議会（会長：秋山 喜久 関西電力株式会社代表取締役会長）から、平成16年6月30日付け諮問第2016号「船上地球局による高速・大容量海上衛星通信システムの技術的条件」について、答申を受けました。

1 背景

近年、光ファイバーやADSL、無線LAN等の活用による利便性に富んだインターネット利用環境の整備が急激に進められています。海上分野においても、運航中の船舶内における旅客等へのEメールの送受信、ウェブページ閲覧等のインターネット接続サービス、IP電話及びリアルタイム映像伝送等の提供等、海上・陸上間的高速かつ大容量のデータ通信に対するニーズが世界的に高まってきています。

また、平成15年（2003年）6月に開催された世界無線通信会議（WRC-03）において、「船上地球局（ESV：Earth Stations on board Vessels）」に関する審議が行われ、船上地球局はC帯又はKu帯の固定衛星業務（FSS：Fixed-Satellite Service）として運用することが可能となりました。

こうした経緯を踏まえ、「船上地球局による高速・大容量海上衛星通信システムの技術的条件」について、情報通信審議会情報通信技術分科会移動衛星通信システム委員会において平成16年6月から審議が進められていたところであり、本日、答申されました。システムの概要については、別紙のイメージ図を参照してください。

2 主な答申の概要

船上地球局の無線設備の技術的条件

項目	技術的条件
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> 人工衛星局を自動的に捕捉・追尾する機能 地球局からの送信許可信号を受信した場合のみ、送信が可能である機能等
送信周波数	5,925から6,425MHzまで又は14.0から14.5GHzまで

その他、周波数の許容偏差等電波の質等が示された。

3 今後の予定

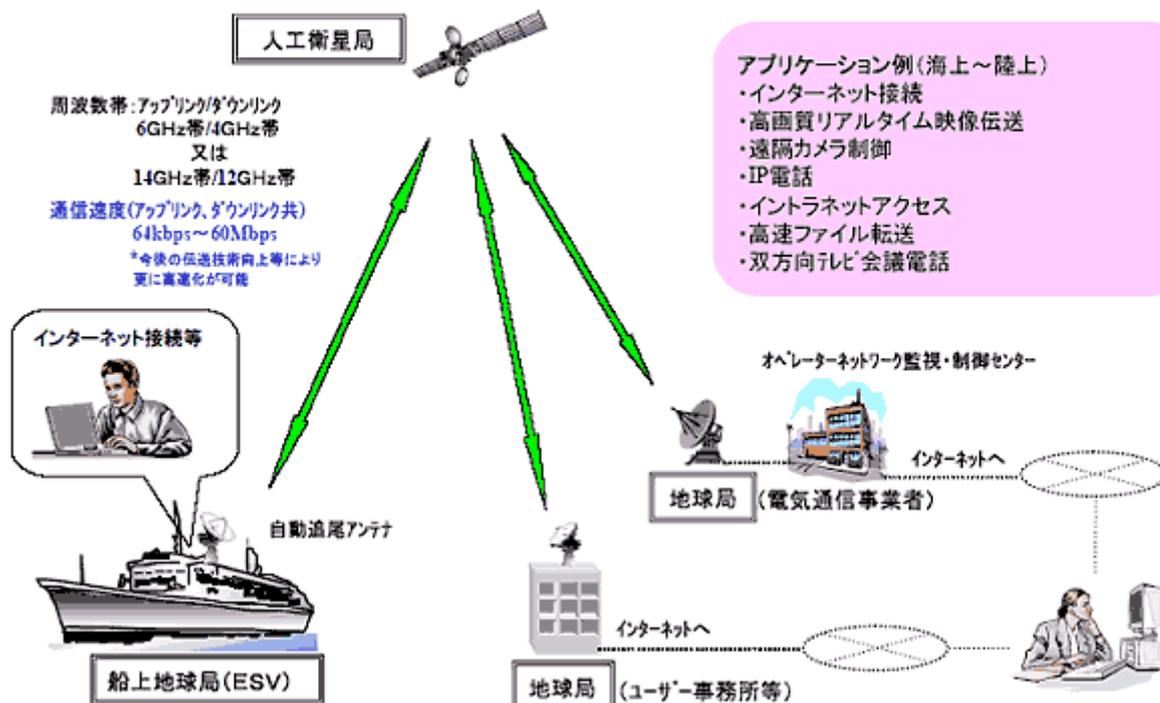
必要な規定の整備が行われた場合、船舶からインターネット接続サービスに示されるような、高速かつ大容量のデータ通信が可能となります。

総務省では、本答申を踏まえ、必要な規定の整備に向けた準備を進めることとします。

なお、詳細については、http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/041129_1.html を参照して下さい。

船上地球局による高速・大容量海上衛星通信システムのイメージ

別紙



欧州電気通信の動き

仏通信市場、3.1%拡大

【La Tribune,2004/11/16】

ART（仏電気通信規制機関）が11月15日に発表したところによると、2004年第2四半期の仏通信市場の売上高は前年同期比で3.1%増の88億ユーロだった。インターネット及び携帯電話部門が増収に貢献しており、インターネット部門の売上高は25.8%増の4億1800万ユーロ、携帯電話部門は14.5%増の36億8500万ユーロを記録した。

固定電話は縮小が続いており、収入は5.7%減の31億9400万ユーロで、通信時間も大幅に減少した。一方、加入者回線開放数は2004年6月末時点で74万3542回線となった。

欧州委員会、通信業界開放を評価
【La Tribune,2004/11/25】

欧州委員会は、12月初めに、欧州通信業界の開放に欧州委が果たした役割を自ら評価する報告書を発表する模様である。仏経済紙『トリビュン』が入手した欧州委の仮報告書によると、欧州通信市場は2004年に4.6%成長し、2770億ユーロ規模に達する。最も成長が著しいのはブロードバンド・アクセスで、加入者数は2003年から2004年にかけて72%増加し、2960万人に達した。但し、加盟国によりばらつきがあり、デンマークとフランスで普及率が15.6%と8.2%に達しているのに対し、ポーランドとスロベニアでは、それぞれ0.5%と0.4%に過ぎない。また、ブロードバンド・アクセスの普及につれて、加入者回線開放も進展しており、開放された回線数は、2003年の180万回線から380万回線へと増加した。また、携帯電話市場も成長を続けており、EU内での加入者数は3億7900万人に達し、普及率は83%に達している。

編集後記

町を歩くとブーツファッションに身を包んだ女性を多く見かけるようになるなど、すっかり季節は師走になり、おかげさまで今年のARIB Newsも次号で終了を迎えます。

しかし世間では、これから大掃除、クリスマス、大晦日等々、なにかと忙しい日々が続きます。さて、大晦日は別名「大晦(おおつごもり)」とも呼びそうで、「晦(つごもり)」とは「月隠(つきごもり)」が訛ったものそうです。語源は陰暦では月末になると月が見えなくなってしまうからで、逆に月が見え始める「一日」を「ついたち」と呼ぶのは「月立(つきたち)」の音便形だとか。大晦日は月の動きにも注目しながら新年の太陽「初日の出」を迎えてみても面白いですね。

ところで、今年からARIBが入居しているビルの入り口に、イルミネーション

が飾られていること、ご存知でした。色鮮やかな電飾が噴水を囲み神秘的な雰囲気をかもしだして、何か暖かな気持ちになり、日頃の慌しさを、暫し忘れさせてくれますよ、是非見に来てはいかがですか。ついでに汐留シオサイトの「光の汽車」イルミネーション「走れ！ファンタジア号」が旧新橋停車場跡地から出発点灯しているそうで、二人(?)でブラリと立ち寄るのも楽しいですよ。

(編集子：SUM)

[ページの先頭に戻る ▲](#)